

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅠ 正答数分布

■ 学力調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、
- ① 市教育委員会は、児童・生徒の学力の定着状況及び教育課程や指導方法等にかかわる課題及び解決策を明確にし、教育行政施策に生かす
 - ② 各学校は、教育課程や指導方法等にかかわる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る
 - ③ 市教育委員会は、市民に対し、市立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

■ 調査日時

令和6年4月18日（木）

■ 調査事項

国語、算数・数学、質問紙調査

■ 調査対象学年

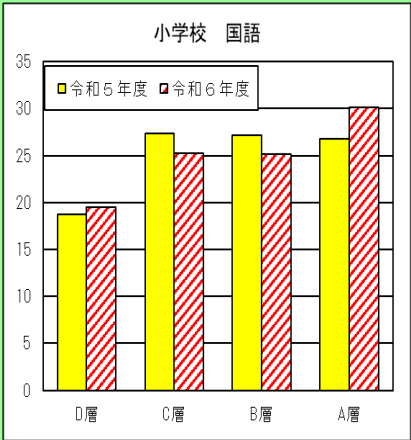
小学校第6学年及び中学校第3学年

小学校 国語 (14問)

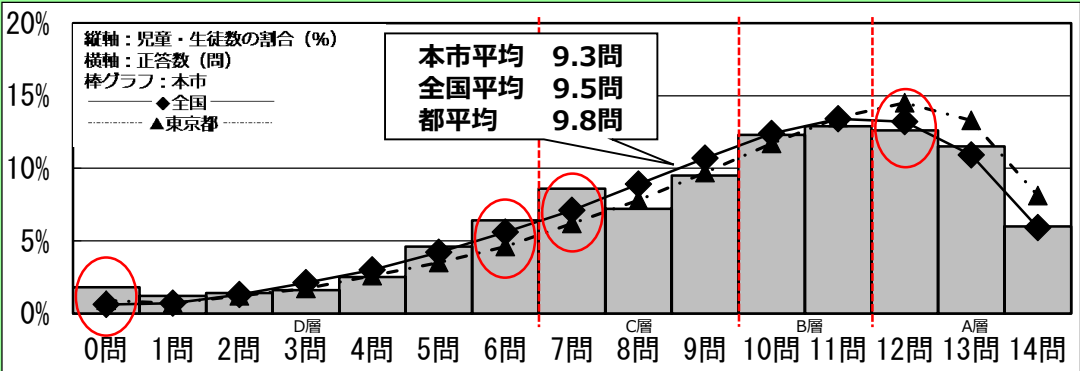
■ 平均正答率(%)

本 市	全 国	東 京 都
67.0	67.7	70.0

■ 四分位の正答数の分布(%)



■ 正答数分布グラフ



■ 現状・課題

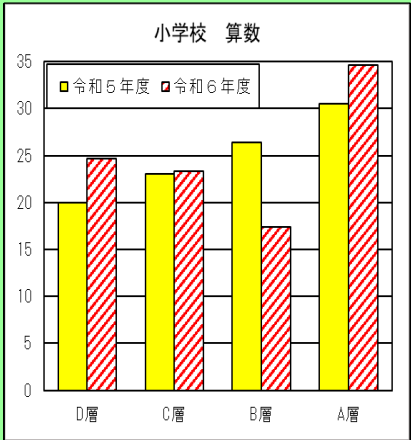
- ① 平均正答率は、67.0%であり、全国より0.7ポイント、東京都より3.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、全国と同様に11問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する12問の児童の割合が全国より低く、C層の属する7問、D層の属する6問、0問の児童の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数は、令和5年度に比べてB、C層が減少し、A、D層が増加した。

小学校 算数 (16問)

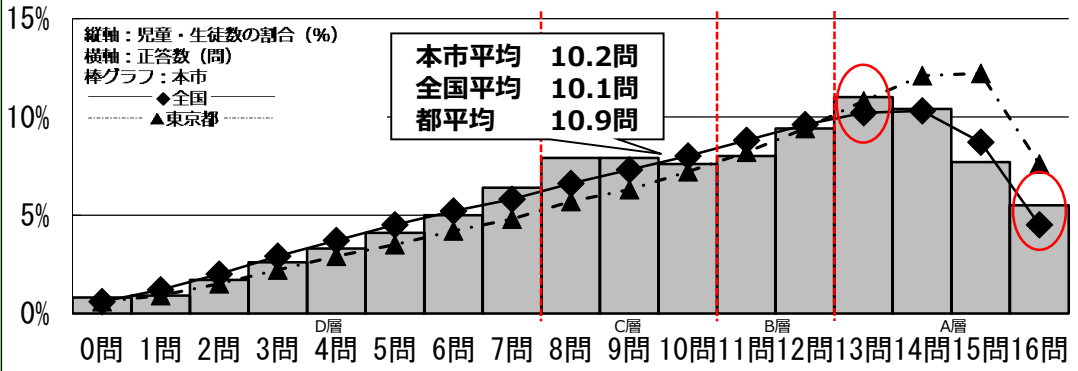
■ 平均正答率(%)

本 市	全 国	東 京 都
64.0	63.4	68.0

■ 四分位の正答数の分布(%)



■ 正答数分布グラフ



■ 現状・課題

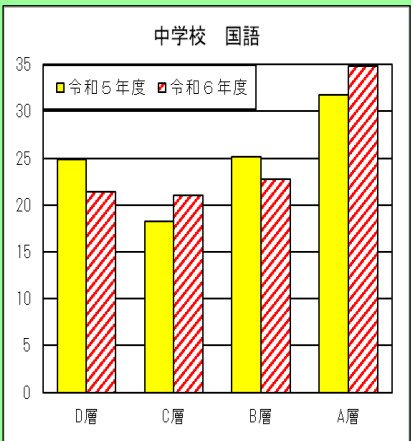
- ① 平均正答率は、64.0%であり、全国より0.6ポイント高く、東京都より4.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、13問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する16問、13問の児童の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数は、令和5年度に比べてB層が減少し、A、C、D層が増加した。

中学校 国語 (15問)

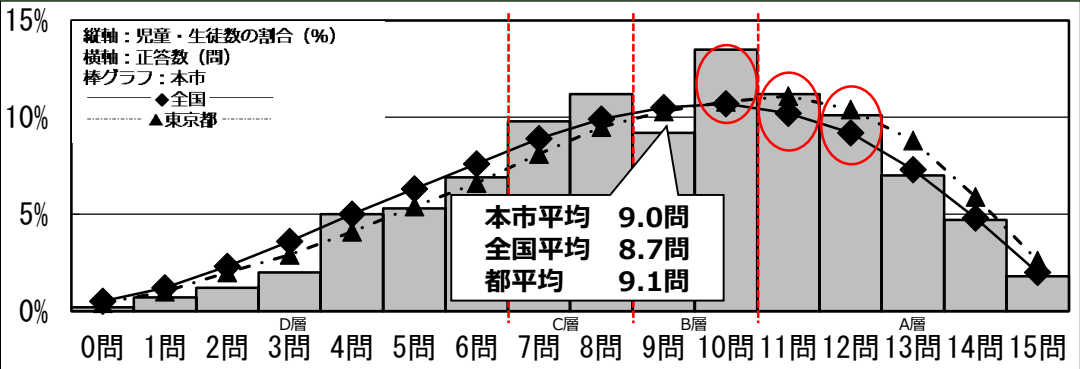
■ 平均正答率(%)

本 市	全 国	東 京 都
60.0	58.1	61.0

■ 四分位の正答数の分布(%)



■ 正答数分布グラフ



■ 現状・課題

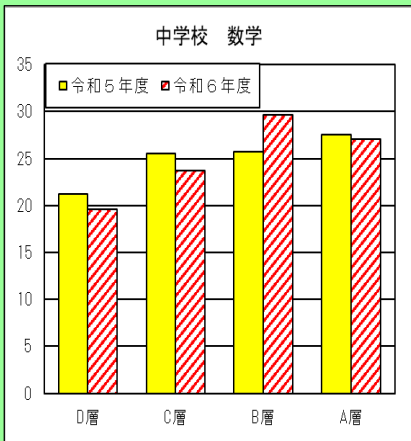
- ① 平均正答率は、60.0%であり、全国より1.9ポイント高く、東京都より1.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、全国と同様に10問を頂点とした右寄りの山型を描いており、四分位のA層が属する12問、11問及びB層が属する10問の生徒の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数は、令和5年度に比べてB、D層が減少し、A、C層が増加した。

中学校 数学 (16問)

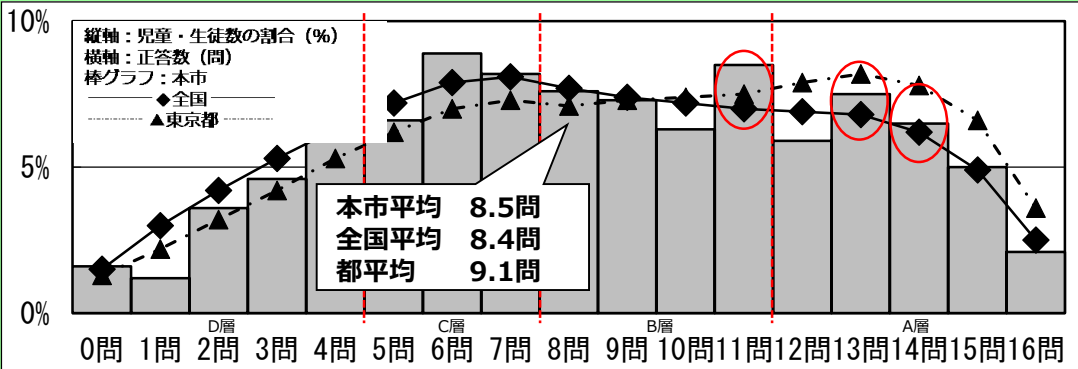
■ 平均正答率(%)

本 市	全 国	東 京 都
53.0	52.5	57.0

■ 四分位の正答数の分布(%)



■ 正答数分布グラフ



■ 現状・課題

- ① 平均正答率は、53.0%であり、全国より0.5ポイント高く、東京都より4.0ポイント低い。
- ② 正答数分布グラフは、高原型を描いており、四分位のA層が属する14問、13問及びB層が属する11問の生徒の割合が全国より高い。
- ③ 四分位の正答数は、令和5年度に比べてA、C、D層が減少し、B層が増加した。

※ 四分位の正答数分布……正答数の多い順に整列し、25%刻みで4つの層分けを行ったものであり、上位からA層、B層、C層、D層と呼称したものである。